



国民の祝日

2024年の国民の祝日は、1月1日の「元日」から始まり、11月23日の「勤労感謝の日」まで数えると21日間あります(ちなみに2025年は19日間)。その中でも5月が4日間と最多で、2月と9月が3日間と二番目に祝日が多い月となっています。

さて、次の祝日「建国記念の日」ですが、ここになぜ「の」の字が入っているかご存知でしょうか?2月11日に制定された日本の建国記念の日は、神武天皇の即位日である紀元節に由来しています。神武天皇とは、古代日本について記した歴史書「古事記」「日本書紀」の登場人物である、日本の初代天皇です。日本書紀の中で神武天皇の即位は「辛酉年春正月庚辰朔」と記されており、現代のグレゴリオ暦で換算すると、紀元前660年2月11日となるためです。古事記の成立年は712年、日本書紀の成立年は720年とされており、成立年より1000年以上も昔の神武天皇即位については真偽が不明とされています。このように、学術的な確証がないため「建国記念の日」と「の」を付けて呼ばれています。紀元節として制定された祝日そのものは、第二次世界大戦敗戦後の1948年に、GHQによって廃止されました。しかし、国民の間で紀元節の復活を求める声が高まり、1966年(昭和41年)に、国会において審議が行われ日本の建国を記念する日として、再び2月11日が「建国記念の日」として制定されたのです。



日本とかかわりの深い諸外国の建国記念日を見てみると、アメリカは、7月4日を「独立記念日(インデペンデンス・デイ)」として、アメリカの建国記念日に制定しています。フランスの建国記念日は7月14日の「革命記念日」です。フランス革命の端緒となったバスティーユ牢獄襲撃と政治犯解放が、革命記念日の由来です。中国の建国記念日は10月1日の「国慶節」です。1949年10月1日の天安門広場において、毛沢東が中国の国家成立を宣言したことに由来しています。中国では国慶節を含む約1週間が大型連休となり、日本でも中国からの観光客をたくさん見ることができます。このように建国記念日は「国の誕生日」として世界各国に存在し、それぞれで、国を愛する日となっています。

学校百景 その⑩:賑わいを見せる図書室

2月1日(木)は、図書委員会が企画していた、「読書宝くじ」の抽選日でした。カードにスタンプをためて、宝くじ券をゲットした子供たちが、ロイロノートで公開された当選番号を見て、「あ!当たった!!」など喜びを表していました。一等商品は、図書の市野瀬先生が準備され、子供たちの垂涎の的になっていたようです。また、図書委員長の松本さんは「イベント期間中は、手が回らないくらい



図書室に人が集まって、たくさん本を借りてくれました。これからも本をたくさん読んで欲しいです。」と述べていました。このように委員会の子供たちのアイデアのおかげで、学校はいつもわくわくして、創造的で活気があり感謝しています。